

梅窓院通信

No. 100
2019/04/01

青山

創刊100号の感謝を込めて



梅窓院通信『青山』が100号を迎えることができました。これも檀信徒皆様のおかげと心より御礼申し上げます。

『青山』になってからは3〜4人の広報部員が中心となって編集していますが、前身の梅窓院通信『長青』では私が一人で作っていた時代がありました。

『長青』とは先々代の中島真孝住職が戦前に創刊、2号目からは『梅窓』と名前を変えた寺報で、戦前に41号を発行、そして昭和51年から中島真哉住職がハガキ通信として再創刊しました。再創刊後は主に念仏信者の俳句やお寺の行事案内を記事にした寺報で、年に4回発行し、お施餓鬼の時だけは封書にしてみました。古いお檀家さんにはご記憶の方もいらっしゃるかと思います。

そして現在の『青山』は新本堂建設に合わせた発行で、平成12年6月に創刊しました。

当時法務部にいた僧侶と相談し、専門知識のある外部スタッフにも手伝ってもらうことにしました。今回、その方にも思い出のコラムを書いていただいています。

また、『青山』の表紙の題字は浄土宗総本山知恩院第86世、**猊下**に揮毫していただきました。今を去る35年前、私の結婚式の仲人を務めていただいたご縁からでした。

さて、今の時代は印刷物という紙媒体よりインターネットといったWEB媒体が主流ですが、私たちの世代にとつては『青山』のような紙媒体は親しみやすいものです。これからも『青山』でお寺の各種情報をお届けいたします。どうぞ、引き続きご愛読いただけますようお願い申し上げます、100号記念の挨拶とさせていただきます。



御祝辞

わたしがいま一番好きな俳句は、へ川を見るバナナの皮は手より落ち」という高浜虚子の句です。その虚子は、俳句は四季の移ろいとそれに伴う人事を詠むものだといっています。そこには、人は自然と共にあり、自然へ帰っていくもの、という思いがあるようです。



虚子はまた、仏教に対する思いが深かったようで、俳句は極楽の

「青山俳壇」選者 大崎 紀夫

文学であるともいっています。

わたしの場合は、食中りで亡くなったおシヤカさまの人間らしさに対する親しみが昔からあり、インドの仏跡を訪ね、沙羅の花や蓮の花を訪ね歩いたことがあります。仏弟子アーナンダの墓を訪れたときは、「おシヤカさまは、あーなんだよ、こーなんだよ、と教えた人だよ」と同行者に冗談をいったものです。

「青山」100号、おめでとうございます。
枝に咲き楮たぶに咲いて梅にほふ 大崎 紀夫

お祝いのごとば

「青山」100号記念おめでとうございます。

私は「食は命なり」という小さなコラムを寄稿しておりますが、食物は生きるために不可欠なものです。そのうえ何を食るかによって人間の体は大きく左右されます。



仏教用語に「身土不二」という言葉があります。「身」と「土」は切り離せない、すなわち人間が生れ育った風土

「食は命なり」執筆者 武 鈴子

と調和することがもつとも理にかなった生き方であるということです。食生活では、四方を海に囲まれ農耕に親しんできた日本人が、魚と野菜と穀物をとることを忘れて、肉食中心の食生活をしてはいけないという戒めです。民族の体の違いは腸の長さや歯並びにも違いがあるといわれます。日本人の体は日本の気候風土の中で季節ごとに食べ継がれてきた和食によって形づくられています。食の乱れが懸念されているいまこそ、無形文化遺産に登録された「和食」を再認識しなければなりません。

100号の編集に携わり

平成11年の暮、青山にある梅窓院が寺報を作りたいので、手伝ってもらえないか、とお声掛けをいただいた。当時は12年の編集者勤務を終え、お坊さんの世界に入り7年目、ようやく新しい世界に慣れた頃で、二つ返事で受けさせてもらった。

以来、100号まで毎号企画を考え、誌面構成を検討、そして多くの檀信徒や梅窓院関係者にお話しを聞かせていただき、全国各地のお寺にも伺わせていただいた。また、地元青山の多くのお店にも訪れてきた。

外部スタッフ 村田 洋一

振り返れば梅窓院の担当スタッフは変わるものの、住職とともに創刊から携わってきた訳で、思い出を書き出したらきりが無い。

「梅窓院だからできる誌面」このポリシーは創刊以来揺らぐことなく肝に銘じている。そして、お手伝いさせていただく限り今後も変わらないだろう。

誌面からながら、今まで一緒に仕事をしてきたスタッフ各位に心からお礼を申し上げます、挨拶とさせていただきます。

100号
記念
特別企画

青山

で
きる
ま
で
が

皆さんにご覧いただいている『青山』ですが、どんな流れで作られているのかをここで紹介いたします。

大きく分けると

■ 編集部での会議・検討・校正

■ 取材者とのやり取り

■ 印刷会社での作業

の3つです。

そして『青山』は梅窓院の広報部の管轄で、部内に担当スタッフは2〜3名います。

編集長は中島真成広報部部长（住職）で、副編集長は川添崇祐広報部副部长、それに外部スタッフが1名います。

現在は行事に合わせて発行（コラム参照）しています。それぞれ、企画会議から発送までを1号の工程として年に6回繰り返しています。

企画会議

誌面ラフデザイン検討



手書きでデザインのもとを作ります。

取材・原稿執筆依頼

取材・撮影、原稿受け取り



テーマに合わせた人選をして、色々話してもらいます。

原稿・写真整理

誌面デザイン案検討

印刷会社と打ち合わせ

再校受け取り

初校戻し

編集部校正



最初の原稿は梅窓院の職員全員が目を通します。

院内各部署の回覧校正

初校受け取り



デザインはコンピュータで作成。レイアウト・デザインの各工程を経て見本が出来上がります。

デザイン・レイアウト制作

広報部での回覧校正

再校戻し

色校正受け取り

編集部校正・校了



これで完成ですというのが、責任校了、略して責了です。

印刷



様々な工程を経て冊子が出来上がります。

現在の『青山』発行状況

新年号	(前年12月中旬にお届け)
春彼岸号	(2月中旬にお届け)
施餓鬼号	(3月下旬にお届け)
お盆号	(5月下旬にお届け)
秋彼岸号	(8月下旬にお届け)
十夜号	(10月中旬にお届け)

発送



ご僧侶にもお手伝いいただき、一つ一つ丁寧に心を込めて、手作業にて全権信徒や関係者に発送します。

納品



印刷会社から梅窓院に出来上がった『青山』が届けられます。

100号 記念
特別企画

青山 100号 の歩み

平成12年6月1日の発行から数えて100号を迎えた『青山』ですが、記事は大きく分けて左の3つになります。

行事案内

春・秋彼岸、施餓鬼などの各行事のお知らせ。特徴はご僧侶が行事に関わる話を執筆していることです。

連載

住職挨拶、法話、行事報告・案内・予定、墓苑部からのお知らせといった定例記事で、皆さんにお伝えしたいことを載せています。そして、「梅窓院を囲む人々」、「青山散歩道」、「青山俳壇」、「食は命なり」といった企画記事です。

特集

本堂落慶や郡上おどり、団体参拝、座談会、詠唱会等紹介、十八檀林紹介など、旬な話題をとりあげています。

創刊号(施餓鬼号)

平成12年(2000)6月



● 住職挨拶(現在まで)

● 梅窓院史(全12回)

● 青山散歩道(現在まで76店舗を紹介)

● 第2号(秋彼岸号)

平成12年(2000)9月

● 青山俳壇

● 第3号(新年号)

平成13年(2001)1月

● 食は命なり

● 梅窓院を囲む人々

(現在まで 57名にご登場いただき、うち檀信徒さんが19名) 全8頁と2頁増頁



● 第6号(秋彼岸号)

平成13年(2001)9月

● 江戸三十三観音 札所めぐり(全11回)

● 第7号(新年号)

平成14年(2002)1月

カラー印刷(8頁中4頁) 以後新年号のみカラーに

● 第13号(施餓鬼号)

平成15年(2003)6月

● 法話

● 第15号(十夜号)

平成15年(2003)10月

十夜号(4頁)を発行し年5回のお届けとなる。

● 第18号(施餓鬼号)

平成16年(2004)6月

● ぶらり門前膝栗毛

(以後60号まで12回開催)

● 第36号(春彼岸号)

平成20年(2008)3月

● 法話 仏教歳時風物詩

● 第44号(十夜号)

平成21年(2009)10月

見開き縦型のA3版表紙に



● 第46号(春彼岸号)

平成22年(2010)3月

● 我が家の宝物(以後60号まで8名にご登場いただきいただきました)

● 第50号(新年号)

平成23年(2011)1月

秋彼岸写真展優秀賞の写真を表紙に掲載(以後98号まで新年号で9回掲載)



● 第52号(特別号)

平成23年(2011)4月

● 遠忌特別号発行

● 遠忌法要と開山忌法要のご案内 (法然上人の八百年遠忌法要と新しく6月に行う開山忌法要を紹介)

● 第53号(お盆号)

平成23年(2011)6月

お盆号(8頁)を発行し、年6回のお届けとなる。

そして、檀信徒さんの登場記事もいろいろ企画してきました。

投句コーナーにインタビュー記事、実際に参加していただくお寺訪問行事、お孫さん紹介や写真応募企画で、檀信徒の皆様にお世話になってきました。

『青山』は多くの皆様に分かりやすく梅窓院の情報をお届けすることを一番の使命にしています。

ということと、100号の中での出来事を年表にしてみました。

頁が増えたり、カラーになったりと編集部の子細な事柄もありますが、色々なトピックを並べてみました。

およそ20年の歩み、どうぞお気楽にお目をお通し下さい。

青山散歩道

青山にある梅窓院ならではの企画。法事の帰りに寄れる素敵なお店紹介で、梅窓院の立地だからこそ可能な記事です。現在まで飲食店を中心に76店舗を紹介しています。

梅窓院を囲む入々

お寺は檀信徒さんはもちろん、色々お手伝いいただいている方々がいて成り立っています。そうした方や学生時代に梅窓院に住んでいたご僧侶などに話を聞くコーナーです。現在まで57名にご登場いただきました。

バックナンバー見られます!



梅窓院のホームページでは『青山』のバックナンバーが見られるコーナーがあります。左のQRコードを利用してお気軽にご覧いただけますので、どうぞお試し下さい。梅窓院の歴史を記した梅窓院史は創刊号から掲載されています。

第20号(新年号) 平成17年(2005)1月
特別企画号で10頁に

第22号(施餓鬼号) 平成17年(2005)6月
印刷所をミスノプリテックに
毎号一部をカラー印刷に

第23号(秋彼岸号) 平成17年(2005)9月
表紙をイラストで構成



第24号(十夜号) 平成17年(2005)10月

表紙と背表紙一体の表紙に
(以後十夜号のベースとなる)



特別号発行

色々なお店のお料理を紹介してきました。

別冊青山散歩道

『青山』散歩道の企画で訪れたお店の紹介をまとめた小冊子



第56号(新年号) 平成24年(2012)1月

●修正会のご案内(新しく元旦に行う行事を紹介。現在8頁)

第62号(新年号) 平成25年(2013)1月

●お檀家さんに伺いました(現在まで67名にご登場いただいています)

第90号(秋彼岸号) 平成29年(2017)9月

●お寺おさんば会(現在まで)参加された檀信徒さんに喜んでいただきました。



第100号(施餓鬼号) 平成31年(2019)3月

フルカラー(8頁中8頁)



お施餓鬼

五月十八日(土)

今年から施餓鬼会が変わります。

午前中の行事がなくなり、

午後の御説教と法要になります。

御説教

午後一時～

祖師堂

講師 京都 静林寺住職 入江康隆 上人

大施餓鬼会法要

午後二時～

祖師堂

- ・法要終了後にお塔婆をお渡し致します。
- ・場所は変更となる可能性もございます。

施餓鬼会は六道のひとつ、餓鬼道に落ちた人へ施しを与える法要です。特徴は特定の先祖に限らないまさに布施行で、供え物を増やす特別なお経を称えます。いつ行うかの決まりはありませんが、お盆の時期に行うことが多いようです。

施餓鬼によせて 一蓮托生

青葉の眩い季節になりましたが、皆様はいかがが過ぎでしょうか。

さて、皆様は四字熟語の一蓮托生はご存知かと思えます。世間では良くも悪くも運命共同体のような意味合いで使われておりますが、そもそも仏教語です。お念仏した人が臨終を迎え、いざお浄土へお生まれする時、蓮台にお生まれするといわれています。

一蓮托生とは、生前にご縁の深かった方と一つの同じ蓮台に身を託して、共にお浄土へとお生まれするという意味でございます。一蓮托生を詠んだお歌をご紹介します。

先立たたば おくるる人を 待ちやせん
花のうてなの なかばのこして

大意：この世から先立ってしまったら、お浄土の蓮台で後から生まれるあなたをお待ちしましょう。蓮の台の半分を空けておき

ます。

また、法然上人の言葉に「先に生まれて後を導かん。引撰縁はこれ浄土の楽しみなり。」とあります。先にお浄土に生まれた方がこの世でご縁のあった方をお浄土へと導き救いとることを引撰縁といいます。お念仏で繋がる私達は先に逝った方に導いてもらい、またこちらからはお念仏をご回向させていただく、いわば相互利益の関係といえます。

今年も施餓鬼会が近づいて参りました。先立つた方へのお気持ちに加えて、共に阿弥陀様のお浄土へとお生まれさせていただくとお願いを込めて、ご一緒にお念仏をお称えいただければ幸いです。

合掌
(法務部／中島真紹)

回向のお申込み方法とお知らせ

◆施餓鬼塔婆お申込み方法

御塔婆

御回向料 …… 1本／1万円

- ・同封のハガキにご記入の上4月30日(火)必着でお申込み下さい。
- ・当日の法要に参加される方は、出席人数も合わせてご記入下さい。
- ・御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いはできません。)

二月の行事報告

第76回 念仏と法話の会 2月28日(木)

開山忌法要

六月八日(土)

梅窓院を開かれた南龍上人のご供養と報恩謝徳の法要を執り行います。

また、法要後に能楽を奉納します。なお、能楽からのご鑑賞は行っておりませんので、法要からのご参列をお願い申し上げます。

また、法要と能楽ともに一般の方も参列、観賞ができます。入場無料ですので、御家族・お友達お誘い合わせの上お越し下さい。昨年度より、法要前に写経を行うことに致しました。詳しくは8面をご覧ください。

写経 — 午後二時 — 二階客殿 ※事前にお申込みが必要です。

法要 — 午後三時 — 本堂 ※法要終了後、休憩がございます。

能楽奉納 — 午後四時 — 祖師堂 演目 半能「敦盛」(予定)



能楽演者のプロフィール

橋本 忠樹
(はしもと ただき)

東京藝術大学音楽学部卒。
重要無形文化財総合指定保持者。

観世流シテ方橋本礪道長男。
父及び故片山幽雪、片山九郎右衛門に師事。

3歳で初舞台。大学在学時には、観世流26世宗家 観世清和、故藤波重満、野村四郎、各師に師事。若者に能楽の魅力を伝える新たな試みに挑戦し、他ジャンルとの共演、お寺・神社やバーでの能公演など、若者が気軽に能や日本の古典に触れる機会を企画し公演を行っている。また、実際に謡・仕舞を教え伝える事にも熱心で、京都・東京での稽古活動の他、幼稚園・小学校等でワークショップを開き、幼少から日本の伝統文化である「能」に触れることによって「本物」を見極める目を養う機会を提供している。

(公社)能楽協会会員・(公社)京都観世会会員・
(社団)日本能楽会会員・大正大学客員教授
京都市DO YOU KYOTO?大使

開山忌とは、そのお寺を開いた僧侶への報恩謝徳を表す法要です。ちなみに開山は僧侶、開基はお寺を建てる援助をしたお施主さんをいいます。また、実際にお寺を建てた僧侶が自分の師僧などを開山上人にするのも多く、梅窓院の実際の開山は南龍上人ですが、観智国師を贈り開山としています。

開山忌によせて

一人の開山上人

梅窓院開山を巡る謎

開山忌といえば、お寺を開かれた上人の回忌法要ですが、梅窓院の場合は少し複雑です。というのも、史料によって二人の異なる開山上人がいらっしやるからです。

一人目の開山上人は観智国師上人、そしてもう一人は南龍上人です。

まず、梅窓院の創建に関して確かなことは寛永20年(1643年)青山幸成候ご逝去のおり青山家敷地内で茶毘に付し、その跡地に同家の氏寺として建立され、幸成候の法名に因み梅窓院としたことです。ちなみに、幸成候は増上寺に埋葬されました。

ところが、一人目の開山上人である観智国師は徳川家康候との蜜月関係で知られ、大本山増上寺の十二世住職も務めた高僧で、元和6年(1620年)に没しています。これは幸成候が亡くなる23年も前のことです。そして、もう一人の開山上人の南龍上人ですが、下野国(現在の栃木県)出身で、史料によると増上寺で修行を終えられたのが承応

元年(1652年)以降のようです。

では、なぜ観智国師を開山としたのでしょうか。

その訳は江戸幕府の寺院政策にあります。幕府は寛永8年(1631年)以降、新しい寺院の建立を禁止していたので、徳川家とも所縁の深い観智国師を梅窓院開山とすることで、実際の創建時期が遅い梅窓院を合法的に作られたお寺としたかったのでしょう。

ちなみに、遷化した上人を後世に開山上人とすることを、贈り開山、もしくは勸請開山といいますが、観智国師は梅窓院の贈り開山になるのです。

今も昔も亡くなった人を思い続けたい気持ちは同じです。青山家の菩提を弔いたいの願ひから当院は創建されました。そんな先人の願ひに思いを馳せて開山忌法要で南龍上人に手を合わせてみませんか。皆様のお参りをお待ちしております。

合掌
(法務部/中島真紹)

行事予定

増上寺御忌大会

4月2日(火)～7日(日)
 大本山増上寺で、4月2日～7日までの6日間浄土宗の宗祖法然上人の御徳をたたえ、その御徳に感謝する特別な法要が行われます。4月3日、4日には詠唱大会が開かれ、北海道から静岡までの詠唱会が大殿(本堂)で奉納します。4日に梅窓院の詠唱会も奉納しますので、皆様お運び下さい。



昨年の増上寺大殿での詠唱奉納の様子。

はなまつり

4月5日(金)～8日(月)
 寺院棟2階 本堂
 寺院棟2階本堂エントランスに花御堂を、休憩所には甘茶をご用意しております。

施餓鬼会法要

5月18日(土)
 ※詳細は中面をご覧ください。

開山忌法要・能楽奉納

6月8日(土)
 ※詳細は中面をご覧ください。

第77回 念仏と法話の会

6月18日(火)
 法話: 幸せを呼ぶ心とは?
 講師: 静林寺住職 入江 康隆上人
 ※詳細はチラシをご覧ください。

発行/ 梅窓院
 発行日/ 2019年4月1日
 発行人/ 中島 真成
 編集/ 青山文化村
 住所/ 〒107-0062
 東京都港区南青山2-26-38
 電話/ 03-3404-8447
 F A X / 03-3404-8107
 ホームページ/ <https://www.baisouin.or.jp/>
 E-Mail/ jodo@baisouin.or.jp
 題字/ 中村康隆元浄土門主
 総本山知恩院第八十六世門跡

第5回

おきおさんぽ会

のご案内



池上本門寺

ご挨拶いただける
 貫首に
 予定です。

開催日 4月15日(月) 時間 10時～15時
 参拝先 池上本門寺(日蓮宗大本山)
 参加費 2,000円(昼食費含む)
 持ち物 輪袈裟、数珠 ※貸し出しもご用意しています。

事前申込制
 定員20名

写経 のご案内

仏教では、経を読めば功德を積むことができ、経を書き写すことでさらに功德があると言われています。そのため、写経は古くから徳を積むための行為として行われてきました。



昨年の写経の様子

開催日: 2019年6月8日(土)
 時間: 14時～14時半(受付開始13時半) ※奉納料は当日、会場受付にてお納め下さい。
 会場: 2階 客殿(変更の可能性もございます) ※筆ペンや写経用紙も用意しております。
 写経: 善導大師『発願文』
 奉納料: 1,000円(事前申込制・先着38名)

参加ご希望の方は、下記問い合わせ先へお電話・FAX・Eメールにて5月25日(土)までにお申込み下さい。

お寺おさんぽ会・写経
 についての
 お問い合わせ・お申込み

梅窓院 青山文化村 〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
 TEL 03-3404-8588/FAX 03-3404-8436
 E-mail/bunkamura@baisouin.or.jp

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

「ボツイチってご存知?」「何ですか?」「離別の時はボツイチって言うでしょう?死別の時はボツイチなんですって。」「没一ですか。全然知りませんでした。」とお答えしていたら「じゃあ私もボツイチですよ。」とお隣に座っていた奥様が仰って没一のお二人(多分初対面)はお互いの没になった理由をお話されていました。梅窓院の休憩所で交わさせていただいた話でしたが、奥が深かったです。教えていただくことがまだまだたくさんありそうです。

さて皆様にご覧がございませぬ。その休憩所の中にペットを連れて入られる方がたまにおられます。大事なご家族のペットちゃんですが休憩所の中に入れることはご遠慮いただいております。もしそういう方を見かけられたら受付までお声がけ下さい。(墓苑部:森)

お檀家さんに伺いました

『明るい年を迎えられました。』 (平成31年修正会にて)

今年も梅窓院に家族全員で来ることが出来ました。新年の決意を一人ひとりご先祖様にご挨拶致しました。法要の際に叩いていた太鼓の音は迫力があり、邪気を祓うように感じました。お雑煮・お節もとても美味しくいただきました。特に、孫たちは栗きんとんが大好きです。来年は米国より帰国する長男一家も加えて、にぎやかにお参りに伺いたいと思っています。